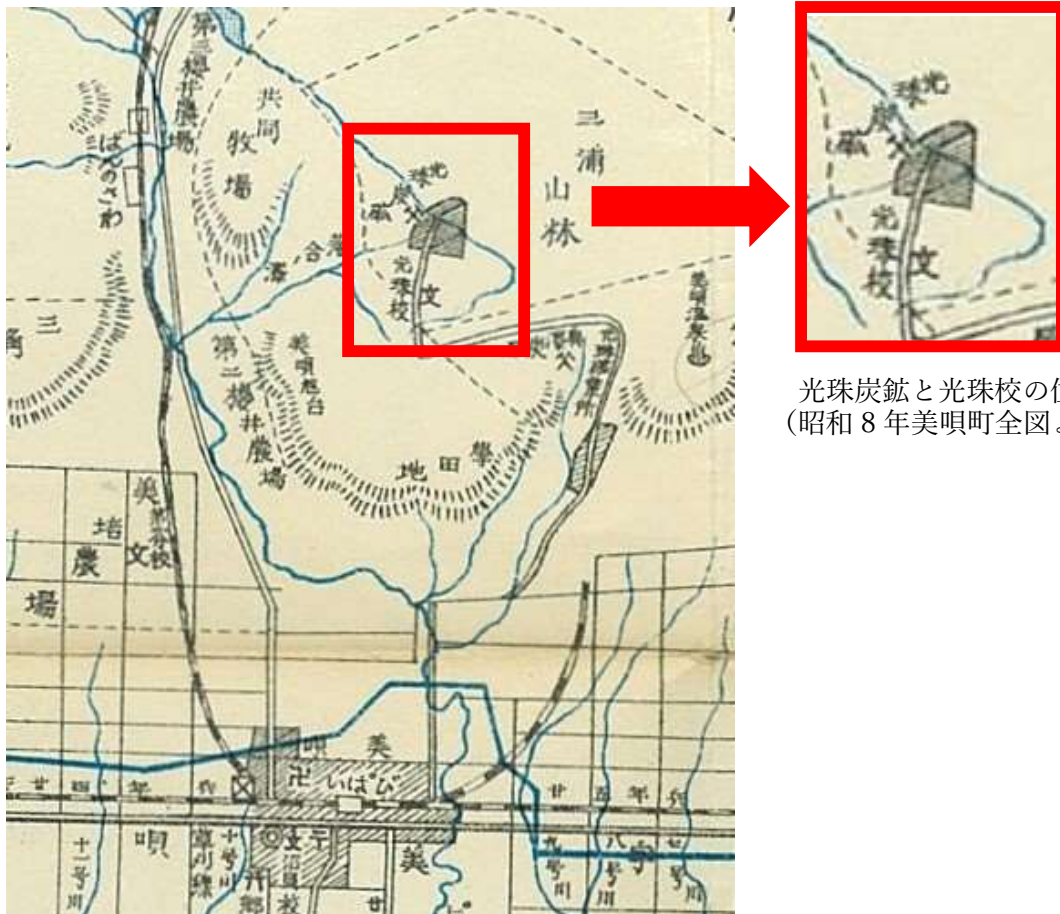


trivia2 わずか7年で姿を消した小学校があった？

落合町の山中の炭鉱にあった**光珠尋常小学校**がその学校です。

大正12年に開坑した光珠炭鉱の従業員の子どもたちのために大正14年に設立、認可された学校でしたが、昭和3年、光珠炭鉱が三井美唄鉱業所に統合され、昭和5年、三井美唄尋常小学校ができたため、児童の半分近くが三井美唄尋常小学校に転校。昭和6年12月に三井美唄小学校に併合、同校光珠分教場となり、昭和7年8月、分教場も廃止されました。正式認可から分教場廃止まで7年間と短い期間でした。

[美唄市百年史・第2章第7節、美唄市史第8章第2節より]



光珠炭鉱と光珠校の位置
(昭和8年美唄町全図より)

<光珠尋常小学校の歴史>

大正9年2月 沼貝尋常高等小学校 沼貝炭鉱特別教授場設置(1、2年生)

大正14年1月 沼貝尋常高等小学校 落合特別教授場開始(単級複式)児童数45名

同年8月 光珠尋常小学校認可 位置: 沼貝町美唄2297の2番地 面積: 600坪

昭和5年 三井美唄尋常小学校新設により、一部転校。転校児童数127名、残存児童数136名

昭和6年12月 三井美唄小学校に併合され、同校光珠分教場となる。

昭和7年8月 分教場廃止

<沼貝炭鉱の歴史> 美唄市百年史 P372 より) 1917 (T6) - 1924 (T13)

大正6年 南美唄町一の沢上流(奥沢)で採掘に着手。以後、山麓に事務所、社宅、合宿、飯場、配給所など整備

大正13年3月 日本石油光珠炭鉱に買収される。買収時の従業員数175名(男142名、女33名)

<光珠炭鉱の歴史> 1923 (T12) - 1928 (S3) (美唄市百年史 P373 より)

大正12年8月 落合川上流で開坑 従業員数 男50人、女3人、幼児5人、計58人。以後、飯場のほか、10軒長屋21棟、事務所、配給所などが整備される。

昭和3年 三井に経営権譲渡。昭和2年末従業員数 874人